

持続可能な社会の実現につながる消費行動を考えることができる生徒の育成

- 1 はじめに
- 2 研究のねらい
- 3 具体的な手だて
- 4 指導計画
- 5 実践の内容
- 6 研究のまとめ

第8分科会
家庭科教育

山田 美保子 (名古屋・天白中)

研究の概要報告

1 第71次教研に提出されたレポートの傾向と研究討議された内容

本次県集会におけるレポート数は12本であった。各レポートの数、内容は次の通りである。

「消費生活」(中学校1本)

「衣生活」(小学校1本、中学校2本)

「住生活」(小学校2本、中学校1本)

「食生活」(小学校2本、中学校3本)

「消費生活」、「衣生活」では、SDGsについて家庭科の学習内容を照らし合わせ、持続可能な社会の実現にむけて、自ら課題を見つけ、解決方法を考えて生活にいかすために、社会や環境への視点を取り入れた実践が報告された。

「食生活」では、栄養素や調理実習の基礎的な知識や技能を確実に習得できるようにとりくんだ実践が報告された。

「住生活」では、自分の生活の中から課題を見出し、主体的に生活をよりよくしていくために、話し合い活動を充実させたり、家庭との連携をはかったりした実践が報告された。

全体的に見て、持続可能な社会の構築の実現に向けた実践が多くみられた。衣食住などさまざまな視点で、未来のために世界が解決していこうとしている問題をとらえさせ、自分たちができることを考えさせていた。また、社会ではどのようなとりくみを行うとよいかを考えさせた実践もあった。

2 本次県集会で論じられた主な課題

(1) SDGsの視点を取り入れた授業展開

子ども発信でSDGsについて考えさせたいが、直接的だと教員主導になりがちになってしまう。「お風呂を洗剤で洗ったが、流すのにとってもたくさんの水を使った。」など、子どもたちからでた生活を送るうえでの問題点を教員が取り上げ、「それっていいのかな。」と問い直すことで、SDGsの視点に気付かせることができる。子どもたちはSDGsの視点について、普段あまり意識していない。だからこそ教員が子どもたちの無意識を意識化させ、自分事としてとらえさせる必要がある。そうすることで、持続可能な社会の構築の実現についての視野を広げるきっかけをつくることができる。また、SDGsのすべての目標を取り上げようとするのではなく、学習する単元で扱えそうなものを取り上げることで、より深い学習ができる。

(2) 持続可能な社会の構築の実現にむけて、他教科やさまざまな活動と関連

家庭科の授業だけではなく、総合的な学習や社会科・学活などと関連させて単元を構成するとより広い視野で考えることができる。また、実際に生徒会で活動したり、企業が行っているプロジェクトに参加したりして、授業で考えて終わるのではなく、行動に結びつけられる学習にしていけるとよい。

実践報告をふまえ、家庭科の未来に向けて「持続可能な社会の実現をめざし、将来にわたり生活を工夫したり、創造しようとしたりする実践的な態度を養うための工夫」という論題で総合討論を行った。魅力的な教材教具との出合わせ方、SDGsの視点から問い直しをすること、段階的に話し合いの場をつくり、「かかわり」の中から生まれる他者への「思い」を大事にすることなど、それぞれの実践の中から多様な視点や手だてが出され、共有された。

各実践報告において、児童・生徒理解、教材理解、授業の方法など多様な観点にたつ意見交換がなされた。助言者からは、教える授業から学びのきっかけを伝える授業への転換に関する論点などが提起された。

報告書ができるまで

第71次教育研究愛知県集会にむけて、70次までの成果と課題をふまえた12本の実践が各単組より報告された。

なお、わたくしたちの研究に対し、ご協力いただいた各先生方に心から感謝したい。

助言者	原田 悦子 (愛知教育大学)	杉江 清恵 (知教連・乙川東小)
教育課程研究委員	新美 翔子 (豊田・上郷中)	岡部 宏美 (知教連・生路小)
	小出 めぐみ (愛知・豊明小)	岡崎 亜澄 (名古屋・宝小)
	松島 夏織 (名古屋・藤森中)	安藤千佳子 (豊田・市木小)
	尾崎 里美 (安城・東山中)	富田 かすみ (名古屋・はとり中)

持続可能な社会の実現につながる消費行動を考えることができる生徒の育成

1 はじめに

昨今、大量生産・大量消費の行動が見直され、持続可能な社会の実現にむけて、企業がSDGsにとりくんでいる内容をCMなどで多く見かけるようになった。個人においても、エコバッグの持参や、3R(リデュース・リユース・リサイクル)への参加が当たり前となる生活の中で、地産地消や被災地・障害者支援につながる商品の購入、リサイクル品の活用など、人・社会・地域・環境などに配慮した消費が定着しつつある。

しかし、目の前の生徒を見ていると、このようなエシカル消費への自発的な発言や行動は少なく、嗜好や値段だけで商品を選択しているという会話をよく聞く。

そこで、商品の購入に関する学習やトラブルとその解決方法、消費者の権利と責任についての学習とともに、商品購入のシミュレーションの授業を一步ふみ込み、SDGsの視点で生徒自身の消費行動について振り返ることで、自発的なエシカル消費につなげさせたいと考え、授業を設定した。

2 研究のねらい

昨年は、販売方法について知識を広げたり、深めたりし、さまざまな情報の中から、必要な情報を選び具体的な理由を述べながら、自分に合った販売方法を選ぶ実践を行った。

しかし、販売方法を選ぶ視点の1つである環境に配慮した方法をとった生徒は少なく、自分自身の消費生活と環境とのかかわりを意識させたいと考えた。また近年、消費者庁より、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動を実践するとりくみとしてエシカル消費が提唱されている。

環境を考えると、身近な環境にとどまらず、世界規模で考えて行かなくてはならないことについても視点を広げさせるため、SDGsの視点から振り返りを行い、仲間と意見を共有させることにした。

3 具体的な手だて

(1) 教材・教具の具体的な活用(SDGs目標カード)

消費行動をする時にとりくめるSDGsの目標を、個人やグループだけでなく学級全体で共有しやすくすることをねらいとして、SDGsの17の目標をカードにして黒板に貼って用いた。

(2) 考えを深める話し合い活動(シールや付箋を使った意見共有)

自分の選んだ商品がSDGsのどの目標に該当するかシールや付箋を使って表現することで、個人やグループでどの目標にとりくめるか視覚的に共有しやすくし、話し合い活動において考えを広げたり深めたりできることをねらいとして活用した。

(3) SDGsの視点を与える学習プリントの作成(SDGs補足プリント)

生徒が自らの消費行動において、SDGsのどの目標にとりくめるか考えやすくすることをねらいとして、SDGsの17の目標に関する名古屋市のとりくみをまとめたプリントを用意した。

4 指導計画

(1) 単元名 「私たちの消費生活」

(2) 対象学年 第2学年

(3) 指導計画

- ① 消費者としての自覚 … 1時間
- ② 購入方法と支払い方法 … 1時間
- ③ バランス良く計画的な金銭の管理 … 1時間
- ④ 消費者トラブルとその対策 … 1時間
- ⑤ 何を考えて決めますか～意思決定のプロセス～ … 1時間 (実践①)
- ⑥ 消費者の権利と責任 … 1時間
- ⑦ 省エネルギーと持続可能な社会 … 1時間
- ⑧ 持続可能な消費生活を目指して … 1時間 (実践②)

5 実践の内容

実践①何を考えて決めますか～意思決定のプロセス～

(1) 学習目標

- ・商品の選択と購入の手順について理解できる。
- ・商品の選択と購入に必要な情報を集め、購入計画を立てて適切に選択できる。

(2) 授業の様子

商品購入のシミュレーションを行うため、班ごとにどの商品を購入するのか、担当を決めた。商品は、ノート、チョコレート、ペットボトルのお茶、靴下の中から一つを担当させ、それぞれA～Cの商品の中からどの商品がよいか選ばせた。この商品はいずれも、校外学習に持っていくという設定で考えさせた。それぞれA～Cの商品の設定においては、Cの商品に環境やフェアトレードなどSDGsとのつながりの

ノート			
	値段	量	その他の特徴
A	168円	B5、30枚	従来品と比べて約20%軽量化
B	87円	B5、30枚	森林認証紙使用
C	148円	B5、30枚	FSCマーク、ベルマーク、あしなが育英会寄付
チョコレート			
	値段	量	その他の特徴
A	258円	124g(33枚)	銅包装、3種類入り
B	278円	mini15枚	銅包装、外包装は紙容器、FSCマーク
C	350円	1枚50g	板チョコレート、フェアトレードマーク
ペットボトルのお茶			
	値段	量	その他の特徴
A	88円	630ml	ブレンド茶
B	48円	500ml	麦茶
C	187円	660ml	ブレンド茶、ラベルレス
靴下			
	値段	量	その他の特徴
A	990円	4足組	抗菌防臭、防汚加工、高白度、つま先かかと補強
B	500円	2足組	抗菌防臭、消臭、つま先かかと丈夫
C	690円	選べる3足	汗の臭いを抑制、オーガニックコットン製品

【資料1：商品の詳細】

深い商品を設定した。(資料1)の値段と量についても生徒に知らせた。

各商品は実物を提示し、値段や量、その他の特徴など、生徒には各商品の詳細の表は提

示せず、商品のラベルやパッケージなどからどのような商品なのかを読み取らせた。

(3) 成果と課題

- 商品を選ぶ際には、チョコレートやお茶は価格と内容量、ノートや靴下も価格と機能など、表示から情報を読み取り、意思決定する生徒が多かった。
- 紙のパッケージを使っている商品が環境に優しいことに気付いたり、F S Cマーク(適切に管理された森林資源を使用した紙製品などにつけられる)がついていることに気付いたりする生徒は、さらに商品に表示されているマークの意味などを調べ、商品選択の情報として活用することが出来た。
- マークや表示について深く考えたり、エシカル消費につながる視点で商品を選んだりする生徒は少なく、消費者としての自覚はまだ薄く感じられた。商品購入のシミュレーションで選んだ商品をSDGsの視点から振り返り、仲間との情報共有をさせることで、考える視点を広げ、より深く商品の購入について考えさせる必要がある。

実践② 持続可能な消費生活をめざして

(1) 学習目標

- ・持続可能な消費生活をめざして課題とその課題の解決に主体的にとりくみ、振り返って改善することで、生活の工夫と創造を実践しようとしている。

(2) 授業の様子

消費者トラブルについての学習や消費者の権利と責任などの学習を終え、直前の授業では、SDGsについての授業を行い、SDGsに関する予備知識をもった上で本時の実践を行った。

本時の授業では、シミュレーションで決定した商品について、SDGsの視点から再度考えることを伝えた。シミュレーションの授業では、「校外学習で使用する商品を選ぼう」という設定で、商品を選んだことを確認した。

各班には、ノート、チョコレート、ペットボトルのお茶、靴下の中から1種類を担当させた。さらにA～Cの商品の中から1つを選ばせ、選んだ理由を発表し、学級全体で共有させた。

価格や機能だけでなく、商品についている表示やマークを見て選ぶ生徒が多いが、何のマークなのか、なぜそのマークを選んだのか、そのマークがSDGsとどうつながっているのか、ふみ込んで考えさせた。ノートは中紙に森林認証紙を使用しているという

3班	ノート チョコレート ペットボトルのお茶 靴下
商品名	A B C
選んだ理由	・小分けにされていて、みんなに分けて食べられる。 ・食べやすいサイズでかつ、たくさん入っている。 ・砂糖 10%オフで体にもいい。
	【資料2：商品を選んだ理由】

表示に気付き「安くて環境にもよい」という視点で選ぶ生徒が多かった。チョコレートは、外袋が紙製になっているものにF S Cマークもついているので、環境によいと考え選ぶ生徒もいた。このように、表示やマークに気付き、環境によい商品について考えることができる生徒も少数いたが、なぜ環境によいのか深く考えることはしていなかった。また、Cの商品についている、ベルマークやフェアトレードマークやオーガニックコットンを使用しているという表示については気付いても、そのマークや表示がどのような意味かわからない生徒が多かった。

価格、機能、環境の視点で選んだ商品をSDGsの視点から振り返るために、SDGs目標カードを黒板に提示したり、各班にSDGsについての補足プリントを渡したりして、SDGsの目標を確認させた。

振り返り 持続可能な社会を考えたとき、その商品をどのように選択するとよいだろう。

持続可能な社会の構築のためには、自分の商品選択や消費行動がSDGsのどの目標と関係しているかを考え、プリントの当てはまる目標に、具体的にどのような行動に移せるのか考え、プリントに記述した。(資料3)

SDGsの目標	具体的な行動
1 貧困をなくそう	・フェアトレード商品を選ぶ。
3 すべての人に健康と福祉を	・原材料へのこだわり。 ・食品添加物を入れない。
8 働きがいも経済成長も	・フェアトレード商品を購入し、相応した賃金を支払われるようにする。
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	・農業の革新やフェアトレードのシステム作りに協力する
12 つくる責任つかう責任	・食べ残さない。 ・消費期限などを考えて商品を購入する。
13 気候変動に具体的な対策を	・プラスチック製品の使用を減らす。
14 海の豊かさを守ろう	・分解される素材で作られた包装容器などを選ぶ。
15 陸の豊かさを守ろう	・FSCマークなど森林保全のマークがついた商品を選ぶ。
16 平和と公正をすべての人に	・フェアトレード商品を選ぶ。

【資料：3 SDGsの目標に関連した具体的な行動】

そのとき、FSCマークは「責任ある森林資源を使用している」という説明を読んで、SDGsの13(気候変動に具体的な対策を)や15(陸の豊かさを守ろう)の目標に関係すると気付いた生徒もいた。また、オーガニックコットンは「3年以上農薬や化学肥料を使用していない」ことから、「生物多様性を守れるのではないか」、「肌に優しく誰でも使用できる」と考えを深めていた。

次に、自分のプリントに記入した各目標に対する行動を、班の共有プリントにシールを貼ることで互いの意見を共有した。さらに、付箋を使用して、黒板に貼ってあるSDGsの目標についての班の意見を集約し、貼り付けさせた。班や学級全体で共有しやすいように、商品毎に付箋の色を分け、付箋に商品名を書き、黒板のSDGsの目標に貼り付けさせた。

こうすることで、意見の出た目標とそうでないもの、各商品によってとりくめる目標に違いがあるのかどうかを、学級全体で意見を共有することができた。意見が少ない目標については、他の生徒の意見を聞くことで、自分では気付かないところでもSDGsにとりくむことができることに気付く生徒もみられた。

最後に、学級全体で共有したSDGsの目標のうち、これから自分が商品選択をするときにとりくみたい目標について考えさせた。そのとき、もともと決定していた商品を変えるか変えないかについて、理由も合わせて記入させ、それをすることでどのような行動ができるか、行動計画を記入させた。行動については、自らとりくめることで考えるよう助言した。その時、生徒の葛藤がみられる記述も認め、実行に移していくことが難しい場合は、すでに選択している商品を選ぶことでとりくめる目標はないか、また、目標について考えたことを記述するように伝えた。

その結果、意見を変えた生徒(資料:4)は、フェアトレードマークに気付いたり、ベルマークやあしなが育英会の表示に気付いたりしていた。また、意見を変えなかった生徒(資料:5)は、最初に選んだ商品について考えを深め、さらに自分ができる行動を見つけることができた。

商品の選択	BからCにする	
商品購入時に取り組むSDGsの目標と行動計画	SDGsの目標	行動計画
	1・3・8・9・10・12・13・14・15	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードマークの商品を購入する。(生産者にもきちんとお金が入る。児童労働をへらすことができる。) ・買ったらず残さず食べきる。期限を意識して食品ロスを減らす。紙の包装を選び、プラスチック包装を減らす。 ・添加物が少ないものを選ぶ。

【資料:4】

商品の選択	Bのまま変えない	
商品購入時に取り組むSDGsの目標と行動計画	SDGsの目標	行動計画
	1・2・7・11・12・13・14・15	<ul style="list-style-type: none"> ・食べないものは買わない。食べ残しをしない。 ・紙製パッケージを選ぶ。 ・ゴミを分別し、ポイ捨てしない。 ・FSCマークなど環境に配慮されたマークのついている商品を選ぶ。

【資料:5】

(3) 成果と課題

- 商品をもう一度見直し、表示やマークからSDGsのどの目標に関係があるかより深く考える様子がみられた。
- 他の生徒の意見を聞くことで、複数のSDGsの目標がつながっていることに気付くことができた。また、ひとつの行動を多面的にとらえることで生活の工夫への深まりを感じられた。
- SDGsについての知識や17の目標を達成するためにできることを、具体的にあらかじめ知らせておくことで、意見や生活への工夫や創造がさらに深まると考えた。

4 研究のまとめ

(1) 成果

振り返りの時、プリントに意見を書く(個人)→グループのワークシートにシールを貼る(グループ内共有)→付箋を黒板に貼る(学級での共有)→振り返りの結果をプリントに記入する(個人)という流れで行うことで、自分の考えを仲間と共有し、話し合うことで振り返り前よりも商品選択とSDGsのかかわりについて考えが広がったり深まったりする生徒が多かった。

SDGsの補足プリントが自分にできる行動について考えるきっかけになった。また、ゴールを一覧にすることで、他の目標との関連を考えやすくなった。振り返り前は漠然としていた理由が、振り返り後にはFSCマークやフェアトレードマークの意味を考えてより具体的に目標との関連を考えて記述することができるようになった。

商品を選ぶときだけでなく、商品を使用するときや処分することを考えてできることの記述も加わり、持続可能な社会の構築について、消費行動とのつながりをより深く考えることができた。

本研究を通して、商品の選択が持続可能な社会につながっていくことに、関心をもつことができた。

また、持続可能な社会に向けて、よりよい商品の選択の仕方について、工夫することができた。

前時の授業で選択した商品より、環境のことを考えた商品選択をした生徒が多く、SDGsを振り返りの視点としたことで、より広い視野で商品選択ができたと考える。

(2) 今後の課題

さまざまな商品が世の中にあふれており、生徒をとりまく状況は日々変化している。そのため、今回設定した状況のみならず、今後もその時その時で自分が何を大事にし、何を選択するのか、考えさせていきたい。今回は消費生活の分野での学習であったが、衣食住などさまざまな单元においても、振り返り考えさせたい。